

平成30年度

# 第 1 回 木 更 津 市 史 編 集 委 員 会

日 時 平成30年 7月30日 (月)

午後3時00分から

場 所 木更津市役所朝日庁舎会議室E

1. 開 会
2. 委員長あいさつ
3. 教育長あいさつ
4. 新任委員・事務局紹介
5. 議 題 『木更津市史』刊行・発刊計画の見直しについて  
『木更津市史』(通史編)の構成について
6. その他 報告事項
7. 閉 会

## 議 題

『木更津市史』刊行・発刊計画の見直しについて

『木更津市史』（通史編）の構成について

## 報告事項

1 木更津市史編集部会長会議の開催（別紙参考資料参照）

2 今後の予定

平成30年度木更津市史編さん事業公開講座（平成30年12月22日（土）予定）

『木更津市史編さんだより』第3号の発行（平成30年11月3日）

『木更津市史研究』第2号の発行（平成31年3月末予定）

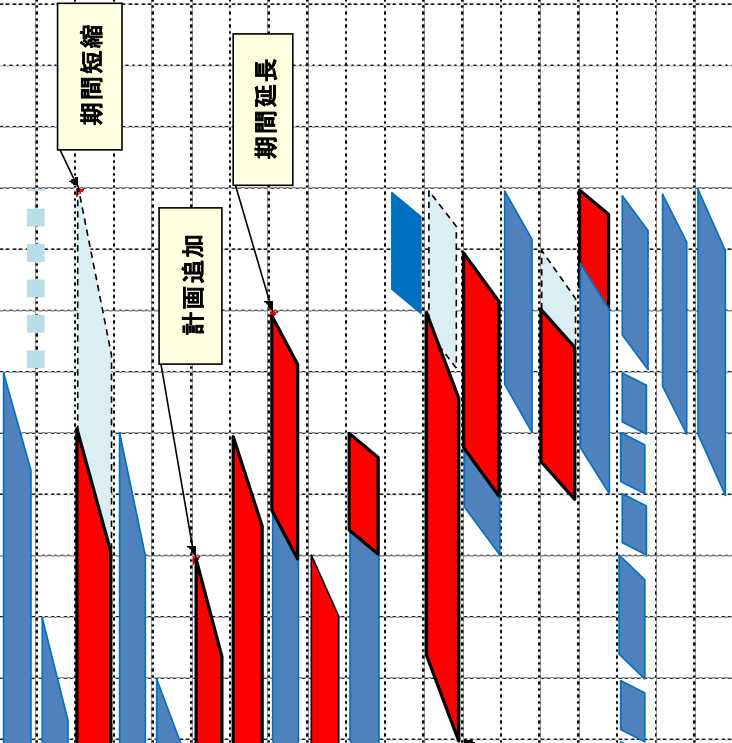
『木更津市史編さん事業公開講座記録集』平成29年度版の発行（平成31年3月末予定）

## 木更津市史編集委員会

実施日程	内 容
平成30年度 第1回木更津市史 編集委員会(7月 30日)	議題 『木更津市史』刊行・発刊計画の見直しについて 『木更津市史』（通史編）の構成について

別表4 『木更津市史』刊行計画

年度	※ ■■■ は、事前準備・継続業務等																						
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45	H46	
他自治体市史編集状況調査																							
市史編集基本構想の策定・改正																							
市史編さん室																							
市史編さん室の解散																							
部会長・部会委員等の選定																							
部会の設置																							
市史調査協力員募集・登録																							
市史研究																							
公開講座記録集																							
木更津市史編さんだより																							
自然編(総論)																							
自然編(資料編)																							
史料編1(考古編1)																							
史料編2(考古編2)																							
史料編3-1(古代編)																							
史料編3-2(中世編)																							
史料編4(近世編1)																							
史料編5(近世編2)																							
史料編6(近現代編1)																							
史料編7(近現代編2)																							
史料編8(指定文化財編)																							
通史編1(原始古代編)																							
通史編2(中世編)																							
通史編3(近世編)																							
通史編4(近代編)																							
通史編5(現代編)																							
民俗調査報告書1～9																							
民俗編(総論)																							
民俗・芸能デジタルコンテンツ作成																							
目録・索引1～4(通史・史料編)																							
Web版作成・公開																							
刊行物数(市史編さんだより、デジタルコンテンツは除く)	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5	4	4	6	4	8	5	7	5	11	2	



## 新版『木更津市史』発刊計画について

平成42年度までに、通史編、史料編、民俗編、自然編から構成される全25(26)巻を刊行します。

### 【通史編】 5巻

原始・古代編	平成42年度→平成40年度
中世編	平成40年度→平成41年度
近世編	平成42年度
近代編	平成41年度→平成40年度
現代編	平成41年度→平成42年度

### 【史料編】 8巻→9巻

考古編1(旧石器・縄文・弥生・古墳時代)	平成42年度→平成38年度
考古編2(古代～近世)	平成38年度
古代編	平成34年度
中世編	平成36年度
近世編1(木更津、清川、金田、波岡、真舟)	平成32年度→平成38年度
近世編2(岩根、中郷、鎌足、富来田)	平成37年度→平成40年度
近現代編1(明治、大正、昭和(市制施行前))	平成32年度→平成36年度
近現代編2(昭和(市制施行後)、平成)	平成37年度→平成38年度
指定文化財編	平成42年度

### 【民俗編】 10巻

総論	平成42年度
民俗調査報告書1(木更津)	平成31年度
民俗調査報告書2(清川)	平成32年度
民俗調査報告書3(金田)	平成33年度
民俗調査報告書4(波岡)	平成34年度
民俗調査報告書5(真舟)	平成36年度
民俗調査報告書6(岩根)	平成37年度
民俗調査報告書7(中郷)	平成38年度
民俗調査報告書8(鎌足)	平成39年度
民俗調査報告書9(富来田)	平成42年度

### 【自然編】 2巻

総論	平成39年度
資料編	平成35年度

### 【その他】

目録・索引	1～4巻	平成40～42年度
民俗編デジタルコンテンツ		平成42年度

(内容：中島梵天立て、木更津ばやし、桜井の獅子舞と市内の獅子神楽)

### Web公開

通史編、民俗編(総論)、自然編(総論)	平成43年度～
史資料編	平成32年度～
木更津市史研究(年1冊)	平成29年度～
公開講座記録集(年1冊)	平成29年度～
木更津市史編さんだより(年1回)	平成28年度～

別表1 『木更津市史』通史編刊行内容

原始・古代編	2編に分けて構成し、第1編は旧石器時代から古墳時代の前方後円墳が終焉するまでの日本の成り立ちと、房総半島での木更津の位置付け。第2編は天皇を中心に律令に基づく国家運営が萌芽し始める飛鳥時代頃から奈良・平安時代を中心に、特定の貴族や寺社が領有する荘園、国府が支配する公領が成立する荘園公領制が始まるまでの政治・社会・文化などの諸様相の中での木更津について記述します。
中世編	荘園公領制の成立した11世紀の終わり頃から、1590(天正18)年の豊臣秀吉による小田原合戦を経て全国統一するまでを関東の中で木更津の位置づけを意識しながら、鎌倉時代、南北朝・室町時代、戦国時代の3編に分けて構成し、鎌倉幕府と房総武士団のかかわりや、庶民、江戸湾の物流と渡町をめぐる争い、真里谷武田氏や戦国大名に成長した里見氏などを記述します。
近世編	徳川家康の関東入府から、江戸時代を中心にして幕末までを、領主支配の諸相、村や町の様子、海浜・山野・河川での人々の営み、漁業や農産加工業、交通や物資の流通、さまざまな身分と人々の日々の暮らしや信仰、文学や美術などについて記述します。また木更津出身者による市内外での活動も含めて記述します。
近代編	明治維新の変革期から、明治、大正、昭和(太平洋戦争まで)の3編に分けて構成し、政治、行政、産業・経済、社会・文化、教育、市民の暮らし、戦争、文学や美術などについて記述します。また木更津出身者による市内外での活動も含めて記述します。
現代編	昭和(戦後)、平成の2編に分けて構成し、政治、行政、産業・経済、社会・文化、教育、市民の暮らし、文学や美術などについて記述します。また木更津出身者による市内外での活動も含めて記述します。

コメントの追加 [N1]: 古代部会の今後の作業見込みから、担当する第2編の編集が先行して進められるので、「原始編」と「古代編」の2分冊に分けてはどうか。

コメントの追加 [N2]: 木更津市としての特徴を出すため、「昭和編」を太平洋戦争までではなく、市制施行までとしてはどうか。

コメントの追加 [N3]: 「昭和編」を戦後からではなく、市制施行からとしてはどうか。

部会名	意見内容
考古部会	<p>「考古編」は、「史料編」を編さんし、「史料編」と「考古編」を並行して作っていくが、基本的に「史料編」をそろえていくのが「考古編」のやり方で、他の部会のやり方を確認したい。</p> <p>墨書土器は、全てのデータは発掘調査報告書なので、考古部会で取り扱うということで良いと思う。木簡、中世石造物も遺跡から出土したものであれば考古資料で良い。</p>
古代部会	<p>「史料編」には墨書土器が含まれ、「千葉県史」は、古代部会の考古学担当が担当した。それに倣うと、考古部会が担当でよいのかどうか。</p> <p>中世との関係は、年代を、1179年までを古代、1180年から中世で良いのか。</p> <p>本の体裁は、「千葉県史」を踏襲して編年史料はA4版2段組注をつけることで進めているが、「袖ヶ浦市史」は別体系なので、それでよいのか。</p> <p>刊行計画では史料編の「古代中世編」が平成34年度に出た後、通史編は「原始古代」が平成42年度と空いているが、作業を進めるうえで支障をきたさないか。平成42年度に10冊刊行になっているが、厳しいのではないのか。</p> <p>古代部会の主たるメンバーは、定年を迎えている人たちで、史料編と通史編の間が空くと人的・年齢的に難しい。この空白期間の短縮は可能か。普通は「原始古代編」が出て「中世編」、「近世編」と刊行していくのが望ましいのではないかと思う。</p> <p>中世と古代との境の年代をある程度早めに決めたい。</p>
中世部会	<p>市史編さん後について、成果物が出た後は何も残っていないというようなことが多い。中世を例に、ある市史ではバックデータを確認したいと思っててもそういうものが無く、確かめるものが無い。第三者が検証することができないとまずいと思う。市史の成果を市に集積して、それを遺産として残すといったことを考えていただきたい。例えば、編さん室や専用の部屋を作るなり、考えていただきたい。</p> <p>中世の場合、調査資料のデータをとり、次行った時には無いかもしれないということがある。そういったものを個人で持つのではなく、市で保管してもらいたい。</p> <p>刊行計画を見て、無理だと思うので見直してほしい。「史料編」に掲載するものをあげると何年もかかる。掲載史料の選定は、全国的にみるのが主流。今回の木更津市の中世は非常に重要なところなので、充実した内容にしたい。そのためには、少し時間をいただかないと無理と思う。</p> <p>古代・中世の境界は、3つ位の隣接部会との話し合いでいいのでは。</p>
近世部会	<p>当初の刊行計画では地区ごとに「史料編」を作ることになっているが、地区別だと薄い厚いがあって難しいので見直しが必要と考える。</p>
近現代部会	<p>「史料編」を平成32・37年度に2巻出し、平成32年度は木更津、清川、金田、波岡、真舟。37年度は岩根、中郷、鎌足、富来田。近現代編は、地区を基準にした構成は馴染まない。「通史編」の構成に沿った形で、政治・行政、産業・経済、社会・教育文化といった分野ごとに史料を出して、全体として近現代木更津の歩みを展望できるような方法が望ましい。</p> <p>1巻と2巻の間が5年間空いているが、第1巻はこの5地区を5年間かけてやって、次の5年間で残り4地区というスケジュールだと思う。年代に沿った形で資料構成するなら、2年か1年で構わない。行政文書、家文書も明治の史料が出てくれば戦後の史料も一緒に出てくるので、1・2巻にあたる部分は並行して調査と史料収集し、掲載史料の候補選定も並行してやるので1・2巻の間は短い期間で充分。</p> <p>「近現代編」2が平成37年度でいいが、「近現代編」1は平成35年度位にしてほしい。その分、市役所旧庁舎にある木更津市の行政文書の調査を行いたい。平成32年度に刊行するなら、平成30年度に掲載資料を確定しなければ、筆耕といった作業を考えると無理。</p> <p>近世、近現代の場合は、史料筆耕翻訳作業が必要になってくる。実際にはパソコンにデータ入力することになると思うが、全体の実数が確定できない。それを一体誰がやるのか、あるいはどういうふうにするのかかわからない。仮に我々がやるなら、負荷のかかる作業で、人もある程度確保しなければいけない作業。</p>
民俗部会	<p>神社関係の調査は近世・近現代部会との調整が必要。石造物の調査は既存の調査資料が何かしらあるものの、活用のあり方は部会を横断して連携していきたいと思う。</p> <p>刊行計画で平成31年度に木更津地区、その次は金田地区とあり、やりくりの中で山の地区を先にやるべきと話している。何かいい方法はないか部会の中で検討中。刊行計画を変えるところまで提案はできないが、当初の刊行計画通りだとかなり先になっているので、無くなってしまうものも結構あるのではないかなというところが懸念。</p> <p>部会横断の作業を、来年度は積極的に他の部会に教えていただきたい。部会横断に関連させて、専門研究のトレーニングを受けた嘱託のような方がいるといいと思う。</p>

## 第1回木更津市史編集委員会 出席者名簿

開催日時：平成30年7月30日(月) 午後3時00分～

会 場：木更津市役所朝日庁舎 会議室E

	氏名	役職	専門分野等	出欠状況
1	すぎやま しげつぐ 杉山 林継	委員長	考古学、神道学	出席
2	なりた あつひこ 成田 篤彦	副委員長	自然（動物生態学）	出席
3	いしわだ ひでゆき 石和田 秀幸	委員	古代史	出席
4	いけだ しのぶ 池田 忍	委員	中世史・美術史・ジェンダー史	欠席
5	かわと たかし 川戸 貴史	委員	中世史	欠席
6	じつかた ゆうすけ 寛形 裕介	委員	近世史	出席
7	しまだて りこ 島立 理子	委員	民俗学・近代史	欠席
8	たにはた みほ 谷畑 美帆	委員	考古学、人類学	出席
9	ほりきり よしひこ 堀切 由彦	委員	郷土博物館金のすず館長	出席
10	いしい ひろのり 石井 宏典	委員	企画部次長	出席

(敬称略・順不同)

出席者：7名